

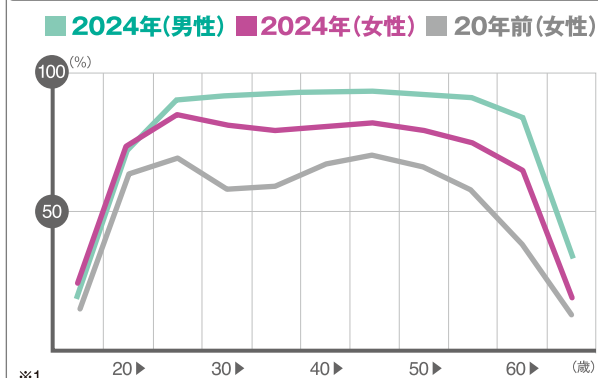
女性の働き方

働く女性は 増えたけれど...?



これまで女性の労働力率は結婚や出産期にあたる年代に大きく低下し、その後再び上昇する「M字カーブ」を描いていました。現在、M字カーブの底は浅くなり、男性と同じ台形のカーブに近づきつつあります。

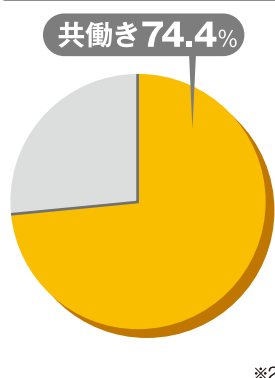
年代別に見る働く女性の割合



共働き世帯は今や7割を超えていますが、女性の働き方の現状はどうなっているのでしょうか。

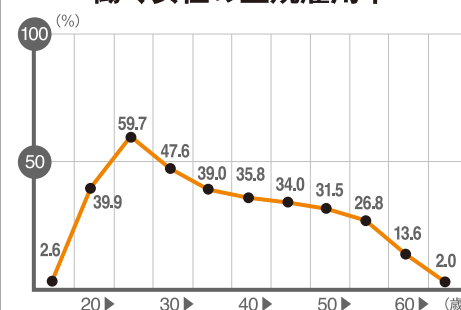
働く女性の半数以上がパートや派遣など非正規雇用です。女性の正規雇用比率は25～29歳でピークに達し、その後年代の上昇とともに

夫婦の就業状況

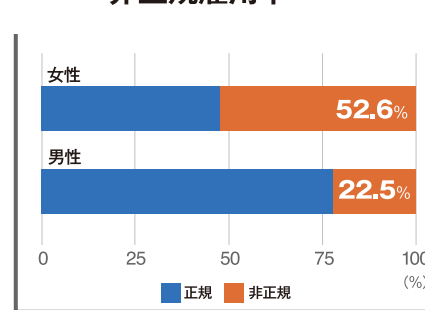


低下する「L字カーブ」を描いています。※3 これは、出産や子育てを理由に一時離職した後、非正規雇用になる女性が多いためです。配偶者がいない女性に絞っても、約40%が非正規雇用です。※2 既婚・単身に関わらず誰もが経済的に自立した生活を送れるよう労働環境の改善が望まれます。

働く女性の正規雇用率 ※3



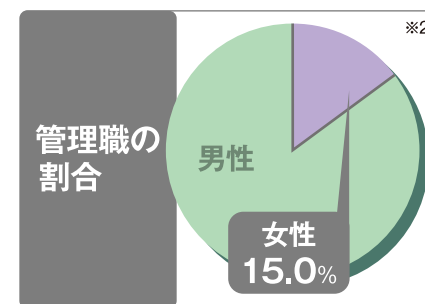
非正規雇用率 ※2



男女間の賃金格差はOECD諸国の平均11%に対して、日本は22%です。※4 日本の女性の賃金は男性の75.8%で、国際的にみてもその格差が大きいといえます。※5 また、女性の管理職が少ないことも女性の賃金が低い要因の一つです。

男性が世帯の稼ぎ主だった時代から少しずつ社会は変化していますが、男女間の格差は残っています。

女性が活躍できる社会の仕組みづくりがさらに必要です。



出典

※1「労働力調査 長期時系列データ(基本集計)」(総務省統計局)

※2「2025年 労働力調査(基本集計)」(総務省統計局)

※3「令和5年版 男女共同参画白書」(内閣府) ※4「Gender wage gap 2023」(OECD)

※5「令和6年賃金構造基本統計調査」(厚生労働省)